

留学生センター ニュースレター

創刊号

9.26, 2003

留学生センターフォーラム開催



留学生センターでは「地域における日本語教育 - 岐阜地域の多文化共生を考える - 」と題したフォーラムを、3月8日、岐阜グランパルホテルで開催しました。このフォーラムでは、岐阜地域における日本語教育、多文化共生の状況について、各方面からパネラーをお招きして、報告、討論を行ないました。

まず基調講演として、山形大学教育学部教授の高木裕子先生に「山形県における日本語教育と多文化共生」と題しお話しいただきました。初めて山形に赴任してから現在に至るまでの様々な試み、行政とのやりとりなどを通じ、山形県でどのように「共生」が整えられてきたのかを、ご自身の体験をベースにお話しくださいました。

次に岐阜大学留学生センターの中須賀徳行教授から「岐阜県における日本語教育の概要」について報告がありました。

後半は講演者お二人に加え4人のパネラーの方々によるパネルディスカッションが行なわれました。まず馬淵直子氏（大垣市西小学校教諭）から、小学校における外国人児童の教育について、舟橋月江氏（小牧市味岡中学校非常勤講師）から中学校における外国人生徒への教育について報告があり、続いて清水恵美氏（可児市国際交流協会）から可児における外国人への日本語教育の取り組みについて報告がありました。最後に東海日本語ネットワークの米勢治子氏からコメントとして、東海地域の日本語教育ネットワークについての報告をいただきました。

その後行なわれた質疑応答でも活発な討議があり、多文化共生に対する関心の高さがよくわかるフォーラムとなりました。この機会を出発点として、留学生センターは地域との連携を通じて岐阜地域における日本語教育、多文化共生により深く携わってまいります。最後になりましたが、フォーラムにご参加いただいた皆様、並びに関係者各位にお礼申し上げます。

「センターが創立されてから」

前留学生センター長 中須賀 徳行

1996年春に留学生センターが設立されたとき、センター長として願ったのは言うまでもないことではあるが、国際交流事業に従事する教職員は何よりも留学生の立場を考えてということであった。またセンターは小さな所帯なので、室内五重奏団のようにお互いのやっていることや気持ちにも配慮して、国際交流の実を挙げていきたいと申し上げたのだった。

教室の拝借や指導教官のことなどで学部などの協力を仰ぐ必要も多々あり、あちこちに出かけて行ってはお願いしたり相談にのっていただいたりもした。国際交流に関心のある学生やサークルには、サマースクールや日常生活で留学生との交流を深めてもらい、地域の人々にも厚かましいお願いをしたりした。こうして留学生センター創立時の留学生数は200名ほどだったのが、今はほぼ倍となって感慨もひとしおである。岐阜大学と岐阜の地が、留学生にとって一生の懐かしい思い出となるように祈るばかりである。



このフォーラムは留学生センター初代センター長を勤められた中須賀徳行教授の退官記念として企画されました。中須賀先生の講演は、退官記念講義でもありました。またパネラーの選出・依頼も中須賀先生がご尽力くださり、充実したフォーラムが開催できました。これからも様々な形で留学生教育・多文化共生にお携わりになることと期待しております。

フォーラムの報告書は、PDFファイルで、

[http://www.gifu-u.ac.jp/isc/Japanese/framepage\(Jap\).htm](http://www.gifu-u.ac.jp/isc/Japanese/framepage(Jap).htm)
からダウンロードできます。

留学生センターのホームページも是非ご覧ください。

<http://www.gifu-u.ac.jp/isc/hptext.html>

森田晃一先生 ご着任

2003年4月に、中須賀徳行先生の後任として、森田晃一先生が留学生センターに着任しました。
温かな雰囲気のある森田先生ですが、少林寺拳法は黒帯です！森田先生に、留学生教育への熱い想いを語っていただきました。



略歴
1957年東京都生まれ。
成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻
博士後期課程単位修得満期退学
研究テーマ
日本近世・近代の社会と文化に関する歴史的研究

とても悲しいことですが、世界のいづこかで、たえず人びとの争いが起こっています。その一因は、文化的摩擦—文化の多様性に関する無理解—にあるのではないのでしょうか。わたしたちは、時代と地域のフレームのなかで、特有の文化を身につけます。そして、その文化に規定されながら生活しています。わたしたちが「異文化」と遭遇するのは、見知らぬ土地を旅行した時—空間的な異文化との遭遇—と、世代間の相違を感じた時—時間的な異文化との遭遇—でしょう。わたしは、出身国の文化を身につけた年齢で来日する留学生たちに、本国文化と日本文化の双方に対して、歴史的な考察をするという方法を教えてみたいと思っています。いわば“複眼的な思考”を養成することによって、文化の相違というものを相対化し、地域特有の文化を尊重する心を養い、世界平和を志向する人間を育成するという教育を行いたいと考えています。



留学生センターのコース紹介



留学生センターではいろいろな日本語、日本文化のコースを開講しています。
今回は、日本語・日本文化研修プログラムと、日本語研修コースをご紹介します。

日本語・日本文化研修プログラム

2001年度より開始した「日本語・日本文化研修プログラム」は文部科学省奨学生対象の特別プログラムで、日本で語学力と日本に関する知識や体験を深めることを目的にし、1年間の総仕上げとして8000字の小論文を課しています。日本語・日本文化専攻の学部生が対象です。第1期生は8人、第2期生は5人で、中国、タイ、スウェーデン、オーストラリア、アメリカ合衆国という、世界各地から学生が集まりました。将来母国と日本との懸け橋になって、国際交流を担う若者達です。



受講者の声 **ダニエル・サンテーンさん (スウェーデン・ルンド大学)**

▼日本語・日本文化研修コースでは、何を勉強していますか。

日本文化を深く理解するために、日本語を集中的に勉強しています。同時に、伝統文化や、現代の日本社会について勉強しています。いろいろな国から来たクラスメートから、各国の社会制度や文化についても知ることができるのがいいですね。4月からは、自分のテーマについて研究を進めています。僕のテーマは、「在日韓国人に対する差別問題」です。重くて深いテーマですが、やりがいがあります。

▼日本人学生との交流はどうか。

勉強が忙しくても、交流はしてますよ。岐阜大学は結構国際関係のサークルが活発だと思います。サークルのみんなとパーベキューなんかしてるし。こういう活動を通して、日本人の考え方も理解できるようになるんじゃないかな。

▼ダニエルさんの将来はどんなことをしたいと考えているんですか。

すっかり日本にはまってるんで、日本の会社か、日本に関わりのある仕事をしたいです。

▼最後に、国際交流についての意見を聞かせてください。

外国に留学すると、色々な考え方を受け入れることが大切だっていうことが理解できます。僕自身も、長期間生活して、人間として成長できたんじゃないかな。いろんな文化背景の人々と生活するためには、ある程度の辛抱も必要だということも分かりました。国際交流については、日本の大学はまだまだ留学生の受け入れが少ないというのが印象です。岐阜大学でも、もっと国際交流を進めて欲しいです。



日本語研修コース

日本語研修コースは、集中的に日本語能力を養成する15週間の日本語コースです。文部科学省から留学生センターに直接配置された国費留学生と、岐阜大学内から、研究や勉学に必要な日本語能力を速成したい研究生、大学院生、交換留学生を受け入れています。初級～中級の3レベルを開講しています。初級レベルは週90分×16クラス、既習者レベルは週90分×10クラスです。4月、10月開講です。



受講者の声 Aクラス Dan Nguyen さん(シドニー工科大学交換留学生)

I came to Japan as an exchange student from the University of Technology, Sydney (UTS). The reason why I chose to go to Japan is that it is doing a lot of trading with Australia, so I thought Japanese would be a good asset for my future career.

I chose to go to Gifu because I heard from previous exchange students that living cost in Gifu is cheap. It's also a good place to study because it's in the countryside.

My Japanese was not so good when I got here so I chose to study in intensive A class. We have different teachers for each period and each of our teachers have various method of teaching.

I think by joining intensive A class my Japanese has improved dramatically. However, we have class everyday from 8:50am to 4:10pm so that was a little bit tiring.

Overall, I enjoyed studying in intensive A class because the teachers are very kind and helpful. Also, the people in our class come from various parts of the world. Therefore besides learning Japanese we can also learn interesting cultures of other countries.

受講者の声 Bクラス Rodrigo Garcia da Silva さん(カンピーナス大学交換留学生)

ずっと日本を訪れてみたいと思っていたので、岐阜大学に1年間留学できるという知らせをもらったとき、感激しました。すぐ「行きます」と返事を書きました。

日本に来る前、3年間日本語を勉強しましたが、日本語での授業についていけるかは正直不安でした。でも、岐阜大学で日本語の集中講座が受講できると知って、安心しました。

岐阜に来たばかりのときは、日本語だけの生活は大変でした。今まで私が勉強してきた日本語では、どう話したらいいか、なかなか分かりませんでした。でもBクラスに参加して、だんだん楽になってきました。

Bクラスでの勉強は、最初は全てが難しく感じましたが、先生方のおかげで、少しずつできるようになりました。大学生生活に役立つ文型や今まで知らなかった漢字もたくさん覚ええました。欠点だと思っていた語彙力もついてきたと思います。もちろん、毎日の漢字テストや毎週の作文テストはとても大変ですから、このコースについていくためには、継続的な努力が必要ですが。

でも、ここで努力した甲斐があったと思います。次の学期では、さらに上のクラスで日本語の勉強を続けたいです。そうすれば、工学部の授業に参加できるだけの日本語能力もつくと思います。

Quando recebi a noticia de que havia sido aprovado para estudar um ano na faculdade de Gifu fiquei muito entusiasmado. Sempre tive interesse em visitar o Japão, e quando soube da oportunidade de realizar este intercâmbio, prontifiquei logo meu interesse.

Já havia estudado a lingua japonesa por três anos, mas no fundo ainda não me sentia confiante o bastante para encarar aulas em japonês. Justamente por isso a noticia de que poderia fazer o curso intensivo de japonês na própria faculdade me deixou bem mais aliviado.

Chegando em Gifu, o uso diario da lingua japonesa ainda era algo muito complexo, era muito dificil me expressar em uma conversação. Mas durante o curso Intensivo B isso foi mudando gradualmente.

Mesmo que no começo do curso tudo parecesse muito complexo, graças aos professores tudo foi ficando mais familiar. Aprendi uma série de novas estruturas que me ajudaram a ser capaz de manter diálogos necessarios para o dia-a-dia da faculdade. Melhorei muito meu vocabulário, uma deficiência que tinha, alem de aprender muitos kanji que até então desconhecia. É preciso lembrar tambem que os testes de kanji diários, as provas de redações semanais requerem do aluno um esforço continuo.

Mesmo assim valeu muito a pena. No próximo semestre continuarei a estudar lingua japonesa em um nivel mais avançado e também serei capaz de atender as aulas da Faculdade de Engenharia.

センター長と国際交流

いよいよ来年4月からの国立大学独立法人化に向けて、岐阜大学も本学の独自性を発揮し、魅力あるキャンパスにするため、国際交流分野においても大いなる努力が求められている。それには本学が中規模総合大学であることから、各種事業が全学レベルで実施できるという特徴を生かす必要がある。現在の留学生センターが設置されるずっと以前、各学部より選出された教官からなる国際交流委員会(12~15人)が置かれていた。当時、室員には本当に留学生の面倒を良く見ていただける先生達が多かった。室員会議も午後1時から5時頃まで、場合によっては7時頃まで時間をかけて多くの課題を話し合っ事業を実施していった。本学における国際交流黎明の時であった。これらの教官や日本語指導の非常勤の方々など多くの人々の地道な努力の積み重ねによって、今日の留学生センターやサマースクールをはじめ多くの留学生事業が推進されているのである。



2003

サマースクール ますます盛況!!



岐阜大学サマースクール（夏期短期留学）は1988年にスウェーデンのルンド大学からの留学生を迎えて発足しました。毎年6月から7月にかけて、交流協定校から留学生を受け入れています。コースでは、日本語と日本文化の授業の他にも、様々な見学旅行やホームステイプログラムが盛り込まれています。宿泊施設には、日本人学生のチューターがいるので、生きた交流ができると好評です。2003年度は、ルンド大学から13名、ソウル産業大学から5名、英国アバティダンディ大学から1名の学生が参加しました。

岐阜大学サマースクールの魅力

私の勤務するルンド大学では、既に80年代に岐阜大学という協定校を得、スウェーデン、あるいは北欧諸国の他大学に先駆けて学生達の夢（学習している言語の国への留学）が実現できた。こうして岐阜大学との交流が始まり、現在では協定校も学部交換を含めて六校までに増えた。

ルンド大生にとって岐阜大学の魅力は、何と云っても二ヶ月間のサマースクールにある。学生たちは政府からのローンで大学生活の全てを賄っており、まさに「時は金なり」とばかり一秒を惜しんで勉強する。このため、学習達成に関しては要求が高ければ高いほど歓迎される。彼らには、寒くて暗く長い冬が過ぎれば日の明るさに比例して学習達成感も高まり、その果てに灼熱の太陽のもと、岐阜大学サマースクールという希望の虹が見えるからである。

サマースクールではスウェーデンでの学習に不足気味の聴解、会話能力が補填され、更に等身大の日本事情という地域学習ができる。毎年教室学習の他、大相撲、明治村、豊田自動車、盆踊りの郡上八幡でのホームステイ、祇園祭りの京都見物と盛りだくさんのプログラムが用意されている。また、岐阜は山あり川ありという伝統的な日本の自然に恵まれ、地域的にも織田信長を持ち出すまでもなく近代・現代日本に直接繋がる歴史の街でもある。さらに、名古屋という大都市を控え、日本全国へのアクセスが便利な場所としての魅力も見逃せない。

このサマースクールで修得した単位は、10単位の特別コースとして登録され、参加者は一年間の学習で本来の40単位に加算された50単位が取得できることになる。これは効果的、

ルンド大学日本語科長 鈴木ルンドストロム和代

経済的学習を要求するスウェーデン人学生には最も適した学習形式といえよう。このため、ルンド大日本語科では他学部で学ぶ全日制の学生や仕事を持つ社会人を対象にハーフタイムの夜間コースを設け、岐阜でのサマースクールを含む二年間で日本語基礎能力の獲得を目指すプログラムを計画している。つまり、学生たちは、学業や仕事と並行して日本語も夜間コースで同時に学べる。このような言語学習の形態は、長年政治経済、工学、社会科学などを学ぶ学生たちが希望しているものであり、同時に人文学部では学生獲得という一石二鳥の効果が期待できる方式でもある。

以上述べてきたように岐阜大学サマースクールは、ルンド大にとってこの紙面では尽くせないほどの意義を持つものであり、相互協力のもとに益々の発展が望まれるものである。

サマースクールに関する詳しい情報は、

[http://www.gifu-u.ac.jp/isc/Japanese/framepage\(Jap\).htm](http://www.gifu-u.ac.jp/isc/Japanese/framepage(Jap).htm)
まで。



センター教官はこんなことをしています!



牟田おりえ 教授



担当授業は日本語教育、文学を通してみた日本、国際理解教育、児童文学と自然保護思想で、研究分野はPhD論文テーマの萩原朔太郎研究と児童文学です。2002年度から「英米児童文学史の再構築」を科研プロジェクトとして、今まで抜けていた英米児童文学史研究にオーストラリア・カナダを組み込む作業を行っています。留学生と日本人学生とを対象とした授業を通し、研究の面でも複眼的視点と幅が出せれば良いと願っています。



太田孝子 教授

留学生指導担当として、主に留学生や留学を希望する日本人学生の相談に携わっています。相談件数は年間約500件を数えますが、「民衆の文化」「聴解・生活会話」などの科目も担当しています。専門は教育学・教育史で、今年度からは科研により、「日本植民地時代の朝鮮の高等女学校」の調査・研究を行なっています。資料の少ない時代の実態に少しでも迫ることができればと願っています。

次号では、橋本慎吾講師、宮谷敦美助手を紹介します